

ユニセフ・キャラバン・キャンペーン に向けて、生徒会を中心とした 戸次中学校の取り組み

ユニセフ・キャラバン・キャンペーンを迎えるにあたり、学校全体で世界の子どもたちの現状や募金の意味、自分たちにできることを考えた大分市立戸次中学校の活動を坂本愛先生にご紹介いただきました。

ユニセフの活動を日本の人たちに知ってもらおうと1979年の国際児童年に始まったキャンペーンです。(財)日本ユニセフ協会の職員が年に2~3回、各都道府県を訪問し、4年で日本全国を一巡します。キャンペーンでは、各都道府県庁を訪問し、知事様や教育長様とのメッセージの交換、教職員・指導主事の方々を対象としたユニセフ研修会、学校で世界の子どもたちの状況について学習するユニセフ教室の開催などを行っています。

戸次中学校ではこれまで「歳末助け合い募金」を行い、国内の災害にあった方々への募金活動を、毎年生徒会の活動として行ってきました。また年に4回、平和授業として戦争被害・戦争加害、憲法や建国記念の日についての学習を行ってきた。今回、ユニセフ・キャラバン・キャンペーンによって、「平和」の視点を国内の現状・歴史から世界の子どもたちの現状へと広げることができた。今回のユニセフ・キャラバン・キャンペーンに向けての取り組みでは、短時間ではあるが、生徒会を中心に事前学習から事後の取り組みまでを全校で行い、生徒の世界平和への意識を高め視野を広げることができた。



©日本ユニセフ協会
戸次中学校でのキャンペーンの様子

ユニセフ・キャラバン・キャンペーンまでの学習プログラム

①生徒会執行部の事前学習

ユニセフ手帳を用い、ユニセフの仕事や世界の子どもたちの現状について事前学習を行った。その学習をもとに、キャラバンを行うに当たっての全校での取り組みを企画し、準備を行った。

②ユニセフ集会(全校集会)の開催

生徒会の企画で、全校生徒による一斉学習会を行った。ユニセフ手帳を全校で読み合わせ、世界の子どもたちの現状を知るとともに、どのような分野で援助が必要とされているか、ユニセフの活動がどのように行われているかを学習することができた。また、「私たちにできることは何か」という問題提起をし、生徒に課題意識を持たせることができた。

③ユニセフ学級会の開催

ユニセフ集会を受け、各学級で感想発表や疑問に思ったことを出し合い、ユニセフの方への質問を考えた。

④学級委員会の開催

各クラスで出された質問を委員会で出し合い、どの質問をユニセフの方にお聞きするかを検討した。

⑤ユニセフ・キャラバン・キャンペーン

ユニセフ・キャラバンの来校。世界の子どもたちの現状を示すビデオの視聴や、実際に使っている水瓶の体験、蚊から身を守る蚊帳の体験などを行った。

⑥学級会での感想記入

キャラバンを振り返り、各クラスで感想を出し合い、感想を記入した。

⑦募金活動

生徒会が中心となり、募金活動を行った。20,905円の募金が集まった。

⑧生徒会新聞の発行

生徒会新聞で、20,905円の募金があれば、どのようなことに役立つかを調べ掲載した。

例) ・ポリオから子どもを守るワクチン1,254回分

・4~5リットルの水をきれいにする薬16,720錠

・子どもを寒さから守る毛布約66枚

・高カロリービスケット260箱

●学習後の生徒の感想●●

今回の学習を通して、一つ気づかされたことがありました。それは今の自分の生活を当たり前と思っていけない、ということです。世界には学校に行きたくてもいけずに働かされていたり、重い病を患っている子どもが多くいると聞きました。ユニセフはそんな子どもたちの支援にも力を入れているそうです。私たちは簡単には苦しんでいる世界の人々を救ってあげることができませんが、普段当たり前だと思っていたことに対し、感謝の気持ち

を持つことが今の私たちにできることであり、世界の人々と心でつながり合える一番の方法だと思いました。

この学習をすることができなかつたら、世界平和について考えたり、自分たちの生活を振り返ったりすることはできなかつたと思います。本当に貴重な体験ができ、よい学習の場となりました。

3年 入不二 裕子